小学校体育「表現運動系」授業を通して得たもの
―中学校1年男子を対象にした基礎調査―

What was Obtained through the Elementary School Physical Education “Expressive Movement System” Lesson: Basic Investigation for a Junior High School Students

キーワード：舞踊教育、小学校体育、表現運動系、郷土芸能

平田　利矢子

Ⅰ．研究目的

現在、中学校保健体育科の教員は、ダンス必修化にあたり様々なダンス講習会に参加している。その中で、著者は、体系的なダンス教育を考えるにあたり、小学校の現場でどのようなダンスが展開されているのか、興味を持った。

ダンスは、小学校では『表現リズム遊び』『表現運動』と称され、中学校から『ダンス』と称される。村田（2009：8）は、『新学習指導要領に対応した表現運動・ダンスの授業の具体化』について、「4・4・4」のくくりによる表現運動・ダンスの発展を解説した。この「4・4・4」のくくりとは、「小学校低学年・中学年」の4年間、「小学校高学年・中学校1・2年」の4年間、「中学校3年・高等学校1·2·3年」の4年間を発達段階にあわせ、4年間ひとくくり3つの段階に提示したものである。

本報告では、中学1年男子が、小学校時代の授業や運動会の中でどのようなダンスを行い、表現運動系の授業を通して何を得たのかを明らかにし、ダンス教育指導の一助となる基礎データを得ることを目的とした。

Ⅱ．研究方法

対象者は、府中市内の5つの小学校区からなる公立中学校の1年生男子86名であり、平成23年10月17・18日にアンケート調査を行った。分析内容は、「どのようなダンスを行い」「何を得たのか」、分析・検討する。結果と考察については、小学校体育の領域『表現リズム遊び』『表現運動』に着眼し、ダンスの基礎技能となる現場の実態を検証した。

Ⅲ．結果及び考察

1．小学校の体育

(1) 教科の目標

学習指導要領の中で、小学校体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」(1)と示されている。

小学校の段階では、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくための「運動に親しむ資質や能力の基礎」を確実に育成することが重要であると強調されている。これらは、運動への関心や自ら運動する意欲・仲間と仲良く運動すること・各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力・運動技能などを指している。また、現在及び将来ともに、楽しく明るい生活を営むための基礎づくりを目指していることが分かった。

(2) 運動領域と内容

体育科の各学年の目標は、体育科の目標を踏まえて第1学年から第6学年まで身に付けさせたいものを、第1・2学年、第3・4学年、第5・6学年の低・中・高学年の3段階に分けて示されている。これは、体育の学習指導に弾力性をもたせることを配慮したものである。また、学年の目標構成は、第1・2学年では2項目、第3・4学年・第5・6学年では3項目で構成されている。体育科の領域構成（表1）は、発達の段階のまとまりを考慮するとともに、基礎的な能力を身に付け、運動を豊かに実践していくための基礎を培う観点から、発達段階に応じた弾力的な指導内容の明確化・体系化を図っていることが明らかになった。

内容構成の考え方は、(1) 各運動領域の内容は「ア 体つくり運動、イ 器械運動系、ウ 陸上運動系、エ 水泳系、オ ボール運動系、カ 表現運動系、キ 集団行動系」、(2) 保健領域の内容は「ア 毎日の生活と健康、イ 育ちゆく体とわたし、ウ 心の健康、エ けがの防止、オ 病気の予防」となっている。運動領域に着眼すると、各運動領域では、基礎的な能力を身に付けるため、低学年は「遊び」からはじまり、中学年・高学年に向けて「運動」へと発展していることが明らかになった。また、体育の学習指導では、低・中・高学年の3段階の中で、弾力性をもたせ、個に応じた様々な学習を積極的に行えるよう配慮されていることが分かった。各運動領域では、児童が易しい運動の中で仲間との競争や色々な課題を取り組むことによって、運動したいという欲求を充足し、「運動の楽しさや喜び」を味わわせながら運動を身につけることが大切とされている。

表1　小学校体育の領域構成

学年	1・2	3・4	5・6
領域	体つくり運動		
	器械・器具を使っての運動遊び	器械運動	
	走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動
	水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳
	ゲーム		ボール運動
	表現リズム遊び	表現運動	
		保健	

※出典：文部科学省（平成20.8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版 P. 12

(3)「表現運動系」の内容

小学校体育の表現運動系の領域（表2）は、低学年は『表現リズム遊び』、中・高学年は『表現運動』で構成されている。これらは、発達段階を経て、中学校や高等学校体育では、『ダンス』と称される。

〔第1学年及び第2学年〕

小学校低学年『表現リズム遊び』は、「ア 表現遊び」「イ リズム遊び」の内容で構成されている。技能は、「次の運動を楽しく行い、題材になりきったりリズムに乗ったりして踊ることができるようにする。」[(2)]ことである。「表現遊び」では、身近な動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで表現したり、「リズム遊び」では、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりして楽しむことができる運動遊びとなっている。また、友達といろいろな動き

表2　小学校から高等学校までの「表現運動系・ダンス」内容の名称と学習内容

小学校			中学校	高校
低学年 1・2	中学年 3・4	高学年 5・6	1·2·3	1·2·3
【表現リズム遊び】	【表現運動】		【ダンス】	
ア　表現遊び	ア　表現	ア　表現	ア　創作ダンス	
イ　リズム遊び ※簡単なフォークダンスを含む	イ　リズムダンス	イ　フォークダンス	イ　フォークダンス ウ　現代的なリズムのダンス	
（歌や運動を伴う伝承遊び及び自然の中での運動遊び）	（フォークダンス）	（リズムダンス）	（その他のダンス）	
	（　　）は、地域の実態に応じて加えて指導できる			

※文部科学省（平成20.8）『小学校学習指導要領解説 体育編』参考　筆者作成

を見付けて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりして楽しむ運動遊びでもある。また、「リズム遊び」は、中学年「リズムダンス」と高学年「イ フォークダンス」へのつながりを考慮して、簡単なフォークダンスを軽快なリズムに乗って踊る内容に含めて指導することができるよう配慮されている。

『表現リズム遊び』の学習指導は、「表現遊び」と「リズム遊び」の両方の遊びを豊かに体験する中で、中学年からの『表現運動』につながる即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力やコミュニケーション能力などを培えることを目的としている。そのために、児童の身近で関心が高く・具体的で特徴のある動きを多く含む題材や弾んで踊れるような軽快なリズムの音楽を取り上げ、時間の学習の中に「表現遊び」と「リズム遊び」の2つの内容を組み合わせたり関連をもたせたりするなど、いろいろなものに“なりきり”やすくする配慮が必要であることが分かった。また、表現やリズムで遊ぶ為に、律動的な活動を好む低学年の児童の特性を生かした学習指導の進め方を工夫することの大切さを再認識した。

〔第3学年及び第4学年〕〔第5学年及び第6学年〕

『表現運動』は、中学年は「ア 表現」「イ リズムダンス」、高学年は「ア 表現」「イ フォークダンス」の内容で構成されている。これらの運動は、自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動となっている。中学年の技能は、「次の運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現したりリズムの特徴をとらえたりして踊ることができるようにする。」(3)こと、高学年の技能は、「次の運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現したり踊りの特徴をとらえたりして踊ることができるようにする。」(4)ことが示されている。

中・高学年の「表現」は、身近な生活などから題材を選んで表したいイメージや思いを表現するのが楽しい運動であり、中学年の「リズムダンス」は、軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って仲間とかかわって踊るのが楽しい運動で、いずれも自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習で進められるという特徴がある。高学年の「フォークダンス」は、日本各地域の民踊と外国のフォークダンスで構成され、伝承された踊りを身に付けてみんなで一緒に踊るのが楽しい運動で、特定の踊り方を再現して踊る定形の学習で進められるという特徴がある。

『表現運動』の学習指導では、児童一人一人が踊りの楽しさや喜びに十分に触れていくことがねらいとなり、そのために、児童の今もっている力やその違いを生かせるような題材や音楽を選ぶとともに、多様な活動や場を工夫して、一人一人の課題の解決に向けた創意工夫ができるようにしていくことが大切だと考えられている。特に中学年では、題材の特徴をとらえた多様な感じの表現と全身でリズムに乗って踊る学習を通して、仲間とかかわり合いながら即興的に踊る体験を大切にし、高学年では、個人やグループの持ち味を生かした題材の選択や簡単なひとまとまりの表現への発展など、拡大する個の違いに対応した進め方をしていくことが大切だとされている。また、「表現」に加え「フォークダンス」の学習を通して地域や世界の文化に触れることも大切とされている。「表現」における技能は、「即興的に表現すること」：題材から思いつくままにとらえた動きを基に、動きを誇張したり・変化を付けたりして“ひと流れの動き”にして表現することや、「簡単なひとまとまりの表現をすること」：表したいイメージを変化と起伏のある“はじめ–なか–おわり”の構成を工夫して表現し、友達と感じを込めて踊ることが示されていた。

2. ダンスの調査

(1) ダンスの好き・嫌い

「ダンスは好きですか」に対する回答（図1）は、①普通51人（59%）・②好き23人（27%）・③嫌い10人（12%）であった。

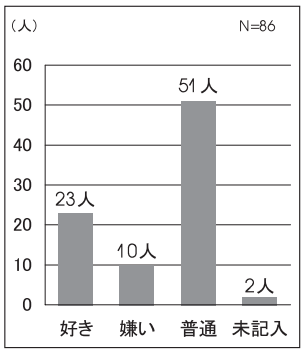

図1　ダンスは好きですか？

① 普通の理由

（表3）は、好きでも嫌いでもない15人・やったことがない12人・得意でない5人・いい面とそうでない面がある5人・観ていてかっこいいと思う3人・その他3人であった。やったことがない12人は、「やったこともないしダンスを観る機会がない」という回答であった。②好きな理由（表4）は、楽しい13人・動くのが好き4人・かっこいい3人・その他3人であった。その他の理由では、「音楽が好きだから」という理由があげられていた。③嫌いな理由（表5）は、苦手4人・つまらない3人・その他3人であった。その他の理由は、「恥ずかしいから・めんどうくさそうだから」と、イメージの段階で嫌いな意識を持っていたことが分かった。

これらのことから、好きな理由の大半は、楽しかったという経験からくるものであることが分かった。また、嫌いな理由は、苦手「リズムをとれない」などの経験や「恥ずかしいから・めんどうくさそうだから」とイメージの段階で嫌いな意識を持っていることが分かった。小学校では、ダンスを『表現リズム遊び』『表現運動』と称するので、男子生徒は今までのダンス領域の内容は、ダンスと認識していない可能性があると考察できた。

表3　ダンスが普通の理由（自由記述）　N=43

項目	記述	人数
Ⅰ：好きでも嫌いでもない（15）	好きでも嫌いでもない	8
	嫌いではないけど好きでないものもあるから	1
	本当に普通だから	1
	普通だから	1
	なんとなく	1
	そこまで触れていないけど興味があるから	1
	別に興味はない	1
	あんまり興味がなかったから	1
Ⅱ：やったことがない（12）	踊ったことがあまりないから	6
	知らないから	1
	初めてやっていてまだわからないから	1
	やったことがないから	1
	あまり関係がないから	1
	あまりやったことがないけどよく見るから	1
	そんなにダンスを見る機会がないから	1
Ⅲ：得意でない（5）	振付などが苦手だから	1
	ダンスが得意じゃないから	1
	あまり覚えることができないから	1
	あまり興味がないしできないから	1
	あまり体を動かすのが好きではないから	1
Ⅳ：いい面とそうでない面がある（5）	やってみると面白いけどあまり興味がないから	1
	ストレス発散できるけどそこまで好きではない	1
	疲れるけどストレス解消になる	1
	嫌いなやつとか好きなやつがあるから	1
	楽しい時と辛い時があるから	1
Ⅴ：観てかっこいいと思う（3）	あまり好きではないが音楽に合わせて踊ってる人はすごいと思う	1
	見るのは好きだけど、自分では恥ずかしい	1
	EXILE を見て少しかっこいいと思ったから	1
Ⅵ：その他（3）	踊ると皆のコミュニケーションが取れてよい	1
	面白いから	1
	わからない	1
未記入（8）	―	

表4　ダンスが好きな理由（自由記述）　N=22

項目	記述	人数
Ⅰ：楽しい（13）	今日やって楽しく思えたから	3
	楽しいから	2
	ダンスをしてると楽しい	1
	楽しかったから	1
	楽しい、ノリノリになれる、テンションが上がる	1
	楽しいし神経が活発化するから	1
	楽しくなれるから	1
	踊れると嬉しいから	1
	面白いと思うから	1
	面白いから、自分で振付できたりできるから	1
Ⅱ：動くのが好き（4）	体を動かすのが好きだから	3
	体をよく動かせるから	1
Ⅲ：かっこいい（3）	キレのある動きがかっこいいから	1
	覚えて踊れたらかっこいいし楽しいから、汗もかける	1
	できるとかっこいいしできたら嬉しいから	1
Ⅳ：その他（3）	もともとソーラン節やよさこいが好きだから	1
	JPOP が好きだから	1
	音楽が好きだから	1

表5　ダンスが嫌いな理由（自由記述）　N=7

項目	記述	人数
Ⅰ：苦手（4）	踊るのが苦手だから	2
	リズムが取れない	1
	とても難しいから	1
Ⅱ：つまらない（3）	つまんないから	2
	面白くない、将来全く役に立たないと思う	1
Ⅲ：その他（3）	恥ずかしいから	1
	ダンスをしたことがないから	1
	めんどうくさそうだから	1

(2) 今まで行ったダンス

男子生徒の出身小学校（府中市）は、A小学校14人・B小学校26人・C小学校32人・D小学校11人・E小学校1人の5校（表6）で構成されていた。「授業で行ったダンス」と「運動会で行ったダンス」に対する回答は、「授業で行ったダンス」はほとんど無く、大半の生徒が「運動会で行ったダンス」（表7）であった。

E小学校を除く、A～D小学校の低学年では、「ボンボンダンス」・「チェッコリ玉入れ」、「ウォーターボーイズ」・「虫キングサンバ」・「ミッキーのゴリエ」・「エイサー」など、「リズム遊び」の要素を取り入れ、弾んで踊れるようなやや速いテンポの曲や児童にとって身近で関心の高い曲（TV番組やアニメなど）を使用して、まねたり・とび跳ねたりする動きの要素が多い踊りを踊っていることが分かった。中学年では、いろいろな速さや曲調の異なるダンスを行っていた。また、軽快なリズムに乗って全身で踊れるよう、フォークダンス（日本）を簡易化したものや、その場で弾み・スキップで移動するリズムダンスを踊っていることが明らかになった。高学年では、力強い踊りの「フォークダンス（日本の民謡）」と組体操が行われていることが分かった。本来、組体操はダンスではないが、運動会のダンスとして男子生徒が記述してきた内容である。この要因の一つに、運動会で『表現リズム遊び』『表現運動』=『ダンス』が、マスゲームの要素として行われているからではないかと考察できた。また、マスゲームは、多人数が集まって体操やダンスなどを一斉に行う遊技で、集団が同調性の高い動作を行う場面が多いので、ダンスとして回答してしまったのではないかと考察できた。小学校の運動会のダンスは、軽快なリズムに乗って基本的なステップを全身で踊る踊りや動きを低くして大地を踏みしめるような足取り・腰の動きで踊る踊りが多いことが明らかになった。

フォークダンスが数多く踊られている理由は、小学校学習指導要領体育科（高学年）の中で、フォークダンス（日本・外国）が、地域の実態に応じて加えて指導できることや1年から6年まで取り扱えるダンスであることが一つの要因ではないかと考察できた。特に、「ソーラン節」は、A～D小学校（5校中4校）で踊られていることが明らかになった。これは、流行りの側面もあるが、学習指導要領のフォークダンス（日本の民踊を含む）の例示として、「阿波踊り」と並んで「ソーラン節」や「エイサー」がとり上げられていることも一つの要因ではないかと考察できた。

表6　各小学校の運動会　学年別のダンス　N＝84

出身小学校	人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A小学校	14	ボンボンダンス	ボンボンダンス	花笠音頭	ソーラン節	組体操	組体操
B小学校	26	チェッコリ玉入れ	ウォーターボーイズ	花笠音頭	八木節	ソーラン節	組体操
C小学校	32	チェッコリ玉入れ	虫キングサンバ	ソイヤ	ジャングルバイブル	組体操	ソーラン節
D小学校	11	ミッキーのゴリエ	エイサー	ソーラン節	40周年のディズニー	組体操	組体操
E小学校	1	フォークダンス	フォークダンス	フォークダンス	フォークダンス	フォークダンス	フォークダンス

表7　各小学校の「運動会」の主なダンス

チェッコリ玉入れ	エイサー	ソイサ	花笠音頭	八木節	ソーラン節	組体操
ガーナ地方の童歌	沖縄民謡	年長～小高学年向けた唄	山形の民謡	群馬県民謡	北海道民謡	笛
軽快なリズムの簡単なダンス	バチと太鼓を用いて踊る踊り	軽快なリズムの力強い踊り	スローな「紅花摘み作業唄」で、花笠を用いる踊り	軽快なリズムの踊り	アップテンポな「ニシン漁の唄」で、迫力ある踊り	道具を使用せず人間の体を用いて行う集団芸術
手をあげたり、頭・肩・腰などをポンポンする踊り	上方・胸の前で、太鼓を叩きながら踊る踊り	ソーラン節を低学年向けにした踊り	鈴の鳴る花笠を胴体付近でさばく踊り	手踊りがメインで、各方角を指す	漁師の動作を用いた踊り	組み立て体操

(3) 記憶に残ったダンス

小学校時代（各学年）に行ったダンスに対する回答（表8）は、全て回答した生徒とそうでない生徒がみられた。小学校は6年間ある為、生徒達の記憶は定かな面もあるが、生徒達は、記憶に残っているダンスを回答していることが明らかになった。A～D小学校で行われている「ソーラン節」は、83人中70人が回答していた。次いで、A小学校・B小学校で行われている「花笠音頭」は40人中25人と「ソーラン節」・「花笠音頭」は、特に記憶に残っているダンスであることが分かった。B小学校・C小学校で行われている1年「チェッコリ玉入れ」は40人中6人が回答しており、他の1年に比べて回答が多いことが分かった。また、C小学校は、3年「ソイヤ」32人中11人・4年「ジャングルバイブル」32人中3人と、4年より3年が多く、D小学校でも2年「エイサー」11人中5人・4年「40周年のディズニー」11人中3人と、4年より2年の回答が多かった。これらのことから、高学年のダンスより低学年で行ったダンスの方が記憶に残っている場合もあることが明らかになった。また、対象者が男子生徒である為か、力強い動きのダンスを回答する傾向がみられた。B小学校は、他の小学校に比べ、2年「ウォーターボーイズ」26人中13人、4年「八木節」26人中18人と各学年のダンスの記憶が明確になっていることが明らかになった。これは、現場の指導力に影響があるのではないかと考察できた。

(4) 今まで行った中で「好きなダンス」

今まで行った中で「好きなダンス」に対する回答（図2）は、①ソーラン節42人（69%）、②組体操6人（10%）、③マイムマイム3人（5%）、④ワイワールド（応援団）2人（3%）などで、「ソーラン節」69%が半数以上占めていた。各理由（表9）は、①ソーラン節は、かっこいい8人・楽しい8人・力強い7人・心に残っている6人・やりがいがある3人・音楽2人・振りが簡単2人・振りが難しい2人であった。次いで回答数は少ないが、②組体操は「できたとき嬉しかっ

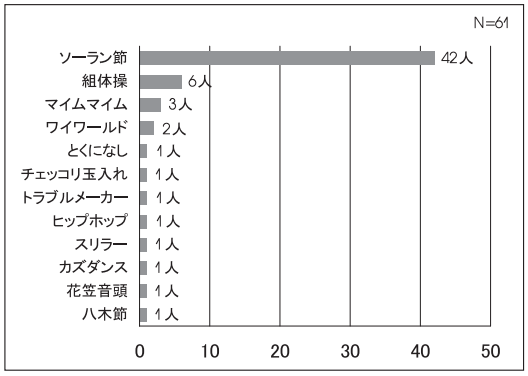

図2　行ったダンスの中で「好きなダンス」

表8　記憶にあるダンス　　N=83

出身小学校	人数	行ったダンス	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
A・B・C・D	83	ソーラン節	0	0	8	9	25	28	70
A・B	40	花笠音頭	0	0	24	1	0	0	25
B・C	40	チェッコリ玉入れ	6	0	0	0	0	0	6
C	32	虫キングサンバ	1	3	0	0	0	0	4
C	32	ソイヤ	0	0	10	1	0	0	11
C	32	ジャングルバイブル	0	0	0	3	0	0	3
B	26	ウォーターボーイズ	2	11	0	0	0	0	13
B	26	八木節	0	1	0	17	0	0	18
A	14	ボンボンダンス	2	2	0	0	0	0	4
D	11	エイサー	0	5	0	0	0	0	5
D	11	40周年のディズニー	0	0	0	3	0	0	3
A・B・C・D	83	組体操	0	0	0	0	10	10	20
A・B・C・D	83	その他	2	0	0	2	1	0	5
A・B・C・D	—	無記入	70	60	41	47	48	45	—
		合計（その他は含まない）	83	83	83	83	83	83	

※E小学校は除く

た」、③ワイワールド（応援団）は「リズムにのれて面白かった」、④八木節は「面白い」、⑤マイムマイムは「楽しく踊れるから」、⑥チェッコリ玉入れは「それしか踊ってないから」、⑦スリラーは「盛り上がるダンスだから」、⑧トラブルメーカーは「はで」と『ソーラン節』の好きな理由と異なる理由が記述されていた。

表９　今まで行った中で「好きなダンス」の理由　（自由記述）　N=52

好きなダンス	項目	記述	人数
Ⅰ：ソーラン節 (42)	かっこいい (8)	かっこいい	5
		かっこよかったから	2
		日本っぽくてかっこいいから	1
	楽しい (8)	一番楽しかった	1
		楽しい	1
		小学校最後の運動会で楽しかったから	1
		この中で一番好きだから	1
		とにかく好き	1
		結構複雑な動きもあるけど出来ると楽しいから	1
		面白いから	1
		なんかいい	1
	力強い (7)	力強いから	3
		迫力がある	1
		動きがとても激しい	1
		思いっきり度があるから	1
		迫力があって楽しかった	1
	心に残っている (6)	一番心に残っているから	1
		心に残っているから	1
		一番印象に残っているから	1
		思い出がある	1
		6年でやって思い出に残ったから	1
		ソーラン節しか覚えてない	1
	やりがいがある (3)	やりがいがあるから	1
		熱くて皆のまとまりがあるから	1
		この中で一番うまくいったから	1
	音楽 (2)	ノリのよい曲だから	1
		音楽がいい	1
	振りが簡単 (2)	振付が簡単だったから	1
		一番わかりやすいから	1
	振りが難しい (2)	ソイヤは低学年向けだから	1
		難しいから	1
	その他 (4)	何回もやったことがあるから	1
		体などを動かしたりするから	1
		何かをイメージしてやっている感じがしたから	1
		これしかやったことがないから	1
Ⅱ：組体操 (3)		辛い時を乗り越えてやったから	1
		できたとき嬉しかったから	1
		色々な技ができて楽しい	1
Ⅲ：ワイワールド (2)		リズムに乗れて面白かった	1
		歌が好き	1
Ⅳ：八木節 (1)		面白い	1
Ⅴ：マイムマイム (1)		楽しく踊れるから	1
Ⅵ：チェッコリ玉入れ (1)		それしか踊ってないから	1
Ⅶ：スリラー (1)		盛り上がるダンスだから	1
Ⅷ：トラブルメーカー (1)		はで	1

(5) 今まで行った中で「苦手なダンス」

今まで行った中で「苦手なダンス」に対する回答（図3）は、①花笠音頭7人、②ソーラン節6人、③フォークダンス5人、④全部3人、④八木節2人であった。各理由（表10）は、①花笠音頭は「動きが遅い」4人・「同じことを繰り返すから」など、②ソーラン節は「動きが難しい」3人・「苦労したから」など、③フォークダンスは「難しい」3人・「同じことしかやらないから」、④八木節は「たたくこと」2人であった。これらのことから、苦手なダンスの理由は、「動きが遅い」・「同じことを繰り返す」などであることが明らかになった。

苦手なダンスを回答した19人は、好きなダンスでは「ソーラン節」17人と「組体操」2人をあげており、苦手なダンスの理由と好きなダンスの理由が、全く逆の理由であることが分かった。さらに、「ソーラン節」が苦手な6人は、好きなダンスでも「ソーラン節」を選んでいた。「ソーラン節」が苦手な理由は「動きの難しさ」だが、好きな理由は「心に残っている」・「かっこいい」という回答であった。このことから、この6名は、「ソーラン節」は苦手だが、克服して頑張りたいと思う気持ちがあったのではないかと考察できた。

(6) 小学校時代のダンスから学んだこと

「小学校時代のダンスから学んだこと」に対する回答（表11）は、①協力17人（36%）、②踊り方12人（26%）、③楽しさ6人（13%）、④体を動かす5人（11%）、⑤個人力3人（6%）、⑥人への影響力2人（4%）、⑦その他2人（4%）であった。各理由は、①協力は「皆で成功させたときの素晴らしさ・協力したらいいものができるということが分かった・ダンスをすることで皆がまとまる」など、②踊り方は「腰を下げる・手をしっかり伸ばす指先まで力を入れてやること」など、かなり具体的な記述がみられた。これらは、B・C校で大半を占めていた。また、③楽しさは「楽しい・ストレス発散できるから・恥かしかったけど楽しくなった」など、⑤個人力は「がんばったらかっこいいものができる・練習すればできる」など、⑥人への影響力は「人に感動を与えること・ダンスは他人を楽しませること」などの記述がみられた。

これらのことから、『ダンス』を通して、「協力」や「個人力」などを得ていることが明らかになった。

また、『表現運動系』の態度や思考・判断である「運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。」

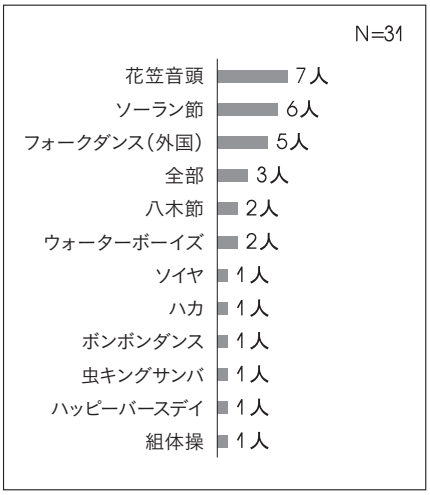

図3　行ったダンスの中で「苦手なダンス」

表10　今まで行った中で「苦手なダンス」の理由（自由記述）　N=19

ダンス	項目	記述	人数
Ⅰ：花笠音頭 (7)	動きが遅い (4)	遅すぎる	1
		ゆっくり	1
		とろいから	1
		とろとろしていてだるいから	1
	その他 (3)	同じことを繰り返す	1
		踊りにくいから	1
		かっこ悪いから	1
Ⅱ：ソーラン節 (6)	動きが難しい (3)	ゆっくりした動きが周りに合わなかったから	1
		腰を下げるのがきつい	1
		膝を曲げるところが難しい	1
	その他 (3)	苦労したから	1
		踊りが長いから	1
		よくわからない	1
Ⅲ：フォークダンス (4)	難しい (3)	振付が難しかったから	1
		うまくできないから	1
		手をつないで踊るのが合わせにくい	1
	その他 (1)	同じことしかやらないから	1
Ⅳ：八木節 (2)		たたくのが難しいから	1
		手に持った竹をいろんなところでたたくから	1

「簡単な踊り方を工夫できるようにする。」(5) ことや「運動に進んで取り組み、だれとでも仲よく練習や発表をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。」「自己の能力に適した課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。」(6) こと、「運動に進んで取り組み、互いのよさを認め合い助け合って練習や発表をしたり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。」「自分やグループの課題の解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫できるようにする。」(7) ことが身に付いていたことも明らかになった。

表11　小学校時代のダンスから学んだ事（自由記述）　N=47

項目	記述	人数
Ⅰ：協力	全員の心を一つにできる	1
	皆で楽しめる	1
	皆で成功させたときの素晴らしさ	1
	皆で団結することができる	1
	皆と息を合わせて踊ったこと	1
	皆とのタイミングがずれないようにすること	1
	ダンスをすることで皆がまとまる	1
	協力すれば成功する	1
	協力すること	1
	協力、団結力	1
	協力する力	1
	協力	1
	仲間の大切さ	1
	協力したらとてもいいものができるというのがわかった	1
	教えあう	1
（17）	息を合わせないときれいなダンスにならないと学んだ	1
	集団でそろえればきれい	1
Ⅱ：踊り方	腰を下げる	1
	手をしっかりとのばす、笑顔	1
	手の先まで伸ばしたり	1
	指先まで力を入れてやること	1
	楽しく笑顔で踊る	1
	思いっきり動いてダンスする	1
	そのダンスの踊り方	1
	ツーステップ	1
	ステップ	1
	リズムに合わせて踊ること	1
（12）	リズムにのる	1
	リズム感	1
Ⅲ：楽しさ	楽しさ	2
	ダンスは楽しい	1
	踊るとストレスも発散できるし楽しい	1
	最初は踊るのを恥ずかしがっていたけど先生たちの教えで楽しく踊れるようになった	1
（6）	恥ずかしいことでも意外と楽しい	1
Ⅳ：体を動かす	難しい動きがたくさんあった	1
	ダンスはとても体を動かすこと	1
	ダンスはとても疲れる	1
（5）	体をたくさん動かす	1
	意外と大変ということ	1
Ⅴ：個人力	がんばったらかっこいいものができる	1
	練習すればできる	1
（3）	真剣にやることは大切なこと	1
Ⅵ：人への影響力	人に感動を与えること	1
（2）	ダンスは他人を楽しませること	1
Ⅶ：その他	音楽に合わせて踊るとかっこいい	1
（2）	つまらないこと	1

Ⅳ．まとめ

今回、報告をするにあたり小学校体育「表現運動系」の基礎資料を得た。小学校の体育では弾力性をもって授業が展開されている。

男子生徒は、力強く・かっこいい踊りを好んでいることが明らかになった。また、『表現リズム遊び』『表現運動』=『ダンス』を通して、協力する力や個人の力や社会性などが身についていることが、明らかになった。小学生は、身体的にも精神的にも著しい発達を促す時期であり、指導現場における、児童の心身の発達の把握・学習内容の選定・指導計画の作成・学習活動の展開などの検討がいかに大切であるか再認識した。また、改めて、児童の運動への能力・適性、興味・関心等の状況に即した指導が意図的・計画的に展開されることが大切であることを再確認した。

Ⅴ．今後の課題

今回の調査を通して、動機づけの重要性を再認識した。また、この基礎資料を今後の指導に役立てたいと思う。

引用文献

(1) 文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版社　P. 9　7-10
(2) 文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版社　P. 35
(3) 文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版社　P. 53
(4) 文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版社　P. 75
(5) 文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版社　P. 36
(6) 文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版社　P. 55
(7) 文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋刊出版社　P. 77-78

参考文献

・文部科学省（2008. 8）『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋刊出版社
・文部科学省（2008. 3 公示）『小学校学習指導要領』東洋刊出版社
・総合初等教育研究所（2008）『小学校新学習指導要領改訂の要点』文溪堂出版
・文部科学省（2008. 3 公示）『中学校学習指導要領』東洋刊出版社
・文部科学省（2008. 9）『中学校学習指導要領解説 保健体育編』東洋刊出版社
・文部科学省（2009. 3 公示）『高等学校学習指導要領』東洋刊出版社
・文部科学省（2009. 12）『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』東洋刊出版社